



# えんじゅ

春日市立春日小学校  
校長室便り No.9  
令和4年8月29日  
文責：校長 福島

## 正門横クスノキの話



夏休み中に、校内の樹木剪定を行いました。正門横に大きなクスノキがありますが、枝が電線に触れていたのがバツサリと剪定しました。校舎横のクスノキと合わせてさっぱりし、気持ちよく夏休み明けの子供たちを迎えています。また新たな芽を伸ばすことでしょう。

この正門横のクスノキは、記念樹として植樹されたことをご存知でしたか。校長室にある周年記念誌には、大正4年(1915年)大正天皇即位大典記念として、当時児童が見守る中で植樹式が行われたという記載があります。このクスノキは、107年間に渡って春日っ子たちを見守り続けてきたのです。校舎横のクスノキについては記載が見当たりません。ほぼ同じ大きさであることから、おそらく同じ時期に植樹されたのではないかと推測します。2本の大木は、創立200年時にもきっとたくましく春日っ子を見守っていることでしょう。

クスノキは、毎年新しい葉が芽吹く春になると押し出されるように古い葉が落葉します。この営みを繰り返しながら少しずつ根や幹を太らせていきます。春日小も新しいことに積極的にチャレンジしながらも、人が人を育てる教育の根幹である「信頼」を大切にしていきます。歴史のある学校だからこそ感じられるものがあり、こだわりが生まれます。

追記ですが、クスノキの手前に写っている昭和48年卒業記念モニュメント「希望」が、内部鉄骨の腐食により崩壊の危険性があることがわかりました。教育委員会と相談の結果、令和5年1月6日(金)に撤去することにしました。昭和48年卒業生の方は61・62歳になります。お知り合いの方でこの卒業記念モニュメントとかかわりのある方にご周知いただければ幸いです。なお、この内容は本校ホームページにも掲載しています。

